

タスクフォース

# 「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」 活動報告書

(活動期間:2015年6月-2017年3月)

2017年3月31日

サイエンティフィック・システム研究会  
タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」



## 目次

1. タスクフォース発足の背景と活動方針	1
2. 活動概要	1
3. メンバー	1
4. 活動履歴	2
5. 会合議事録	3
6. 総括	19
(参考資料)各メンバーの活動まとめ	28

## 1. タスクフォース発足の背景と活動方針

これからの大学には、国際的な産業競争力向上の基盤として、グローバルな舞台で積極的に挑戦し活躍できる人材の育成、先進的な研究開発による科学技術への貢献が求められている。

また、ネットワーク環境の急速な進展により、様々な情報を結びつけることで、新たな価値やイノベーションを起こせる時代が到来した。

この様な状況の中、これからの大学は、局所的な情報利活用ではなく、全学的もしくは大学間、さらには社会との情報(データ)連携によって、新しい価値を生み出し、大学の使命を果たしていくことが、急務となっている。

本TFでは、Open Academy(\*)を念頭に、2020年～2025年時点の近未来に目指すべき大学のあり方やモデル(教育、研究、事務、インフラ、調達、大学経営 他 を含む)を、制約なしで議論し、得られた知見を、大学の経営層への提言としてまとめることを目標とする。

(\*)Open Academy:Open Education、Open Science、Open Dataを有機的に結びつけ、オープンな教育研究環境を提供する概念

## 2. 活動概要

本タスクフォースは、活動方針に沿い、2020年～2025年時点の近未来に目指すべき大学のあり方やモデルを、データに注目して検討した。各委員が所属する大学において、実際にどのようなデータをどのように利用しているかを現状調査するとともに、ユースケースからみて、連携が必要なデータの検討などを行った。また、様々な立ち位置からのアイデアを集めるために、「あしたのコミュニティーラボ」、富士通(株)人材採用センター、富士通(株)文教部門が開催したアイデアソン(\*2)(学生、大学教職員、富士通若手社員などが参加)に対して企画・講演・審査面で協力し、特に教育を受ける側の学生からのアイデアの収集を行った。さらに、ゲストを招き、様々な教育に関する取り組みなどについて、国内事例、海外事例(おもにフィンランドの事例)を紹介してもらうとともに、意見交換した。

2017年3月に活動を終了し、これまで行ってきた調査、検討、議論をもとに、本報告書としてまとめた。

(\*2)「大ガッコソン！ ー常識を覆せ、わたしの考える未来の大学ー」

2016年2月18-19日：アイデアソン(横浜・神戸同時開催)、3月7日：決勝プレゼン(蒲田)

■活動期間：2015年6月～2017年3月

## 3. メンバー

			氏名	機関/所属(2017年3月31日現在)
会員	担当幹事		小林 真也	愛媛大学
	推進委員	(まとめ役)	村上 和彰	九州先端科学技術研究所
			柏崎 礼生	大阪大学
			八重樫 理人	香川大学
			近堂 徹	広島大学
賛助会員 (富士通)	推進委員		中尾 保弘	富士通株式会社
			林 直樹	富士通株式会社
			戸谷 崇浩	富士通株式会社
			草野 良智	富士通株式会社
			太田 雅浩	富士通株式会社

## 4. 活動履歴

### ■第1回会合：2015年6月8日(月) 広島大学

- ・大学におけるデータ利活用やデータ連携に関する議論
  - －各大学での現状報告
  - －富士通からソリューション構想の報告
- ・OACFJ についての情報共有

### ■第2回会合：2015年8月3日(月) 富士通(株)

- ・アイディアソンの概要企画
- ・活動のロードマップ確認

### ■第3回会合：2015年11月16日(月) 香川大学

- ・アイディアソンの詳細企画
- ・本タスクフォースが目指す成果の検討

### ■第4回会合：2016年3月7日(月) 富士通(株)

- ・アイディアソンで出たアイデアの共有、議論への反映検討

### ■第5回会合：2016年6月24日(金) 富士通(株)

- ・有識者からの情報提供および意見交換
  - －海外事例(主にフィンランドの教育制度、歴史的経緯、現状) / 福田 誠治(都留文科大学)
  - －芝浦工大におけるアクティブラーニングの取り組みについて / 井上 雅裕(芝浦工業大学)

### ■第6回会合：2016年9月15日(木) 大阪大学

- ・有識者との意見交換を受けた議論
- ・評価(大学、教員など)についての議論
- ・学生の進路についての議論
- ・活動のまとめ、活動報告書の方向性・内容の検討
- ・本タスクフォース終了後に、さらに議論したいことについての自由討論

### ■第7回会合：2016年12月5日(月) 九州先端科学技術研究所

- ・活動を通じての各委員のまとめの確認、意見交換

### ■第8回会合：2017年1月6日(金) 愛媛大学

- ・各委員の活動まとめに関する意見交換(続き)とタスクフォースとしてのまとめの検討

### ■第9回会合：2017年3月13日(月) 富士通(株)

- ・活動報告書の最終検討・確認
- ・新たな活動についての検討

## 5. 会合議事録

タスクフォース第1回準備会 議事録

(敬称略)

- I. 日時：2015年3月26日(木) 10:00-12:30
- II. 場所：富士通(株) 汐留本社6階エグゼクティブルームC
- III. 出席者：  
村上和彰(九大)、柏崎礼生(阪大)、八重樫理人(香川大)、  
近堂徹(広大)、中尾保弘(富士通文教(ス)事)、戸谷崇浩(同)、  
太田雅浩(同(デ)ジ(ビ)本)、西一成(事務局)、黒田和秀(同)
- IV. 配布資料  
#1 タスクフォース5準備会資料  
#2 別紙 国立大学法人等におけるクラウドコピュエティングの導入について  
#3 別紙 教育研究の革新的な機能強化とイノベーション創出のための学術情報基盤の整備について  
#4 別紙 OACFJ(Open Academic Cloud Foundation Japan)企画書  
#5 別紙 SS研TF「2020年に向けた大学ICTのクラウドデザインを考える」企画  
#6 別紙 SS研TF「教育研究環境のクラウドデザインへの提言」活動報告
- V. 議事内容(★はアクションアイテム)

### ■決定事項

- 当初企画とは方向性が異なってきており、本日の議論を受けてメンバで再度検討して、活動計画を決める。★  
→方向性は「ゼロから大学を作るとした時の情報基盤はどうあるべき」を議論し、現実とのギャップを見据えつつ、OACFJへの要望を纏める。

### ■主な議論

1. タスクフォース(以降TF)準備会の主旨説明
- 当初、本TFでは大学ICT基盤のクラウドデザインの検討をしようと考えていた。OACFJが立ち上がり、軌道修正しOACFJありきで、それへの要望や利活用について、検討する方向もあると感じている。皆さんの意見を聞いて、固めていきたい。
2. これからの大学ICT環境についての意見交換
- (1) 広島大のパブリッククラウド活用
- 3/20にクラウドサービス利用シンポジウムを開催した。今回更新では、共通化できる部分は全てパブリッククラウド利用とした。
  - クラウド導入にあたり、入札仕様書の書き方を変えた。資料をWebに掲載している。ハードスペックからサービススペックへ。
  - 文科省「クラウド運用状況及び導入計画等調査」への広大の回答状況についても掲載している。
  - 業務、事務システムの移行へのハードルは高くなかったか？  
→副理事のトップダウンで進めることで、業務システムの移行は問題なく行えた。学内への理由付けには、既作成のパブリッククラウドサービスガイドラインを後ろ盾に行った。
  - 全てをパブリッククラウドに乗せるのか？  
→研究室レベルではなく、全学共通部分を出した。Web資料記載のユーザ占有型とユーザ共有型パブリッククラウドの2つがある。
  - カスタマイズはどこまで許すのか？  
→利用者側でいじれないようにし、カスタマイズさせない形で進めた。
  - ベアメタルへの要求はないのか？  
→HPC利用への要求が少なく、この領域は大計センタに依存

(広大)

- HPCI利用ではセンタ内という声は少ない。研究データをクラウドに出せるのか、出し入れについては考える必要がある(阪大)
- 学内のコンセンサスが来ていないので研究データの外部、他大学への外出しはしないと判断した(広大)
- ・今回の更新については、以下のサイトに資料あり。  
<http://www.media.hiroshima-u.ac.jp/news/cloudsymo2015>

### (2) グラウドサービス利用におけるリスク

- ・学内基盤は四国電力系のSTNetを利用している。学内制度やポリシーに適合させるため、静岡大のようにセンタをキャンパス分室と位置付けるという考え方をしている(香川大)  
→クラウド活用にあたっては、大学としてのガイドラインやセキュリティポリシーを書き換える必要もある。  
→ガイドラインがあっても、それだけで防ぎ切れないというのが実態。
- ・クラウドサービス移行後、サービスが終了してしまうリスクや責任をどう考えるかが、大きな問題である  
→Yahooメールの廃止に伴い大変な思いをした。ML移行は大変な手間になる。Office365への移行には猶予期間を半年設けた(広大)
- ・医学部併設の場合カルテの扱い等、要注意な事案が発生することがある。  
→厚労省の通達で、カルテ情報は同一拠点内に限るという制限が撤廃されたと聞いた。今後、ロビイスト活動も重要になってくる。
- ・クラウド化は、技術面の課題や検討事項もあるが、それにも増して内部調整が大事になる。

### (3) OACFJについて

- ・4/14にOACFJの発起人で第1回企画会議を行う。
- ・OACFJでは、サービスは大学単位で契約する形になる。
- ・代理店業務企業はサービス利用のためのコンサル的な役割も持つ。
- ・2015年度上期はFSとして仕様の詰めを行い、10月から試行サービス開始。2016年上期から本格サービスを行う。  
まずは、2016年度の概算要求をターゲットにしたい。
- ・研究データを2年～5年保持するという要求があり、DropBoxのように自動バックアップできると良い(阪大)
- ・ハイパーバイザー入れ替えには、かなり長時間を要する(北大の場合、1000時間単位)。運用面から、どこに現実解を求めるかを考慮すべきである。  
→北大のアカデミッククラウドは、1年ごとにVMを壊すを宣言して、利用者側に了解して利用してもらっている。
- ・中小規模大学では、OACFJに移行する際のコンサルは重要になる。大学の環境によっても全然違うが、導入支援、運用に落とすノウハウ等である。  
→設計・構築はOACFJが行うが、各大学への導入支援に民間でのビジネスチャンスが出てくる。  
→より公平な立場でのコンサルを期待したい。
- ・ハブ/事務局は、NIIが看板となるが、実働では業務委託という形になる。  
→枠組みが、どこまで長続きするのか、10年後にも存在するのか疑問がある。継続の仕掛けが必要である。  
→学認クラウドと同じ様に、外部委託して事業化がされるのではないか。
- ・SaaSのように大きなパッケージではなく、マイクロサービスをAPIを通じて組み立てるような仕組みがあると、大学毎の要望に応え易いのではないか。  
→全てのパッケージ料金を払うのなく、APIを使った分だけ払うという課金方法の見直しが必要になる。  
→予算の付き方等、大学の中の仕組みも整理しておかないと

難しい。現状の従量課金では馴染まない。

3. TF5 活動計画の検討

- ・当初企画とは方向性が異なっており、本日の議論を受けてメンバで再度検討して、活動計画を決める。★  
→方向性は「ゼロから大学を作るとした時の情報基盤はどうあるべき」を議論し、現実とのギャップを見据えつつ、OACFJへの要望を纏める。
- ・会議後、村上先生から、経産省「クラウド移行」を支援する補助金制度のURLの通知があった。

[http://www.nttpc.co.jp/service/biz-agera/info/2014/07/201407151500\\_4.html](http://www.nttpc.co.jp/service/biz-agera/info/2014/07/201407151500_4.html)

4. 次回日程(TF5 準備会第2回会合)

- ・日時：2015年4月15日(水) 15:00-18:00
- ・場所：富士通関西システムラボラトリ 8階第2応接会議室
- ・議題：TF5 活動計画の検討立案

以上

## タスクフォース第2回準備会 議事録

(敬称略)――

I. 日時：2015年4月15日(水) 15:00-18:00

II. 場所：富士通(株) 関西シスラボ8階第2応接会議室

III. 出席者：

村上和彰(九大)、柏崎礼生(阪大)、八重樫理人(香川大)、  
近堂徹(広島大)、中尾保弘(富士通文教シス事)、  
林直樹(同)、戸谷崇浩(同)、草野良智(同)、  
太田雅浩(同デジビジPB本)、  
西一成(事務局)、黒田和秀(同)

IV. 配布資料

#1 タスクフォース5準備会第2回資料

#2 別紙 OACFJ(Open Academic by Cloud Foundation Japan) 企画書 Ver.3.0

#3 別紙 SS研TF「2020年に向けた大学ICTのグランドデザインを考える」企画Ver.1.6

#4 別紙 移行期にあるネットワークサービスのセキュリティWG 成果報告書

#5 別紙 TF5準備会第1回合議事録

V. 議事内容(★はアクションアイテム)

## ■決定事項

- ・OACFJが今日、明日の議論をするのに対し、TFは明後日(2020年またはそれ以降)の議論をする場とする。2020年もしくは2025年の目指すべき最適な学習環境はどうなっているかを、制約なしで議論する。
- ・議論の範囲はOACFJに拘る必要はない。近未来の大学のあり方やOpen Academyについて、自由に絵を描く活動とする。
- ・TF4として、全学情報の観点からの業務データ統合、情報統制のあり方を議論する計画がある。TF5と狙う方向が同じであり、別個に議論する必要がないため、TFの一本化(新TF4)を、TF4企画担当の小林先生に相談する。★事務局
- ・新TF4メンバーには、TF5準備会メンバーが就任する。
- ・TF名称「データで紡ぐオープンアカデミー(のあり方)」とする。
- ・2020年(もしくは2025年)の新しいOpen Academy(大学を含む)のモデルを考え、必要とされるデータを定義し、誰がどのように持ち(オーナーシップ)、どう集約し、どのようなサービスをインプリしていくかを議論する。

## ■主な議論

1. OACFJ 企画の進捗状況

(1)OACFJの進捗状況

- ・先日のOACFJ関係者打合せは、サービス組織の必要性について合意した。具体的な進め方については、これから議論する。
- ・打合せでは、以下の3つの議論を行った。
  - ①ビジネスモデル…ニーズ、コスト、収支計画等を検討。  
企業も含めたモデルをどう考えるか
  - ②アライアンス…AXIESを始め、私大協や国大協を含めて関連組織とアライアンスを組み、組織化を考える  
→私立大の場合、公開される情報が限定される傾向がある。  
CS研のチャンネルを生かすという方法もある
  - ③既存クラウド…学認クラウド等との関係を明確にする必要がある
- ・Academic Cloudという言葉でなく、Open Academy by Cloud(OAC)を新たに定義し、Open Education(OE)、Open Science(OS)、Open Data(OD)を具現化するサービスを考える。
- ・単に現システムをクラウド化するのではなく、魅力的なものとして新たにビジネスモデルを確立する役割も持たせる。
- ・4/24に文科省)榎本審議官とOACFJについて意見交換する。本件も含め、関連の議事録は必要に応じてTF関係者に共有す

る。★村上先生

(2)大学システムについて

- ・国立大の約70%がクラウドを導入しているという調査報告があるが、単にメールシステムの移行程度のものが多い。今回の文科省からの調査依頼の回答状況については分る範囲で共有する。
- ・大学の扱うデータの横連携をさせたい。それにより個々の大学のデータ利用では得られなかったものが見えてくる可能性がある。
- ・クラウドを適用することで、データセンター、ネットワーク、要員等々の費用が、本当にトータルでコストダウンできるのかを明確にする必要がある。  
→AWSは、データの出し入れで課金(ネットワークトラフィックに対する課金)するので、場合によってはオンプレミスよりも割高になる。
- ・SINET4では地域毎のノードが存在したが、SINET5からフラットになる。OACFJでも、地域展開のまとめ役として拠点校(ノード校)が必要になるのでは。
- ・クラウド導入にあたって業務共通化が重要になる。以前、文科省が国立大事務システムの共通化を目指したが、法人化を機にバラバラになった。  
→事務や教務分野も議論の対象としたい。必要に応じて、職員にも議論に入ってもらう必要がある。  
→各大学のデータのスキーマが同一ならば、無駄な人件費が抑えられる。
- ・国立大は旅費精算も大学毎にバラバラである。また科研費の学内での申請プロセスもマチマチである。  
→北海道地区ではJTBの旅費精算システムを導入しており、北大を始め6大学が使用している。  
→四国地区ではSCSKがDream Campusでの旅費システム導入を働きかけているが、四国総合大学構想もあり、現時点では様子見である。
- ・クラウド課金が従量制だと、事務側が難色を示す可能性がある。  
→OACFJの課金方法は、定額制で追加分バウチャーという形態も考えていきたい。事務側が受け入れ易い課金形態を検討中。

2. タスクフォース5活動計画の検討

(1)タスクフォース活動への意見

- ・OACFJが今日、明日の議論をするのに対し、TFは明後日(2020年またはそれ以降)の議論をする場とする。2020年もしくは2025年の目指すべき最適な学習環境はどうなっているかを、制約なしで議論する。
- ・議論の範囲はOACFJに拘る必要はない。近未来の大学のあり方やOpen Academyについて、自由に絵を描く活動とする。
- ・TFで見出した新たな期待やニーズを、OACFJの新サービスとして追加したい。
- ・大学の全てのシステムをクラウドで作る。フルクラウド化したらOpen Academy(教育、研究、事務、インフラ、調達等)がどんな姿になるのか議論したい。その際、大学、ベンダーのインセンティブの両面を考えないと絵に描いた餅になる。  
→これが実現出来たら、ベンダーは日本だけではなく海外でも売れる。
- ・システムは無料で、データ利用に課金するという形になると思う。このビジネスモデル転換が本当に出来るかが鍵になる。  
→クラウドベンダーは、データを集めて将来のビジネスに生かすというアプローチを考えている。Googleはデータが欲しいから、そのうちフルパッケージ無料サービスを出してくる可能性がある。
- ・今まで、システム維持のために多くの力を注いで疲れ果てたというのが実態。これからはシステム中心ではなく、データ中心で議論する必要がある。  
→学生データを外出しできるか等、データに関するポリシーの見直し



- データの利活用シーン(ユースケース)から考える
- データを整理することから、新たな価値を生み出す
- データは論理的につながっていれば良い
- ・各システムが保持しているデータと入出力できるデータを明確化することが重要であり、はっきりしていないとデータ活用の検討も出来ない。
- ・大学のデータについて、大きなエコシステムの視点を持って考えていくべき。
- ・学生主体で自らの成績データを活用し、就職活動をするという動きがある。
  - 大学成績センター <http://dscenter.co.jp/>  
学生が自分で成績を登録(大学が登録成績を検証・認証)し、学生と企業のマッチングに生かしている。数万人が利用
  - これからは学生が自分のポートフォリオをコントロールし、デザインする
  - データのオーナーシップを明確にすることが重要
  - 学生は無料、企業が費用負担。サービス提供ベンダーには、永続的に運営していく覚悟が必要である。

4. 次回日程(新TF4 第1回会合)
- ・日時: 2015年6月8日(月) 15:00-18:00
  - ・場所: 広島大 東広島キャンパス  
情報メディア教育研究センター

以上

## (2)活動計画

- ・準備会第1回/第2回の検討結果を踏まえて、活動計画の作成を行う(～5月中旬)。
- ・富士通側メンバで計画案作成し、MLにて全員で確認・調整を行い、幹事会(5/22)にかける。

## (3)活動体制

- ・TF4として、全学情報の観点からの業務データ統合、情報統制のあり方を議論する計画がある。TF5と狙う方向が同じであり、別個に議論する必要がないため、TFの一本化(新TF4)を、TF4企画担当の小林先生に相談する。★事務局
- ・新TF4メンバには、TF5準備会メンバが就任する。  
担当幹事 小林先生(愛媛大)  
推進委員 村上先生(まとめ役)、柏崎先生、八重樫先生、近堂先生  
富士通 中尾、林、戸谷、草野、太田

## (4)活動の進め方

- ・TF検討の中では、必要に応じて関係者をゲストとして招聘し、情報交換を行う。  
→大学成績センターの辻代表も候補
- ・TF検討の中間時点で、学生や職員も交えてアイディアソンを実施する。何が求められているか(学習、研究環境)を聞き出すとともにアイディアを出してもらおう(2016年1月頃を想定)。

## (5)TF名称

- ・「データで紡ぐオープンアカデミー(のあり方)」とする。
- ・2020年(もしくは2025年)の新しいOpen Academy(大学を含む)のモデルを考え、必要とされるデータを定義し、誰がどのように持ち(オーナーシップ)、どう集約し、どのようなサービスをインプリしていくかを議論する。

## 3. 今後の進め方

- ・第1回会合  
日時: 2015年6月8日(月) 15:00-18:00  
場所: 広島大 東広島キャンパス
- ・第1回会合までの宿題
  - 各大学の関連するスキーマを集める ★各メンバ
  - 大学でのデータ利活用やデータ連携のユースケースを考える★各メンバ
  - CampusMate-Jのデータ仕様(項目レベルまで)を準備する ★富士通
- ・委嘱状は幹事会承認後に発行する。  
今回の準備会のデータを送付する。
- ・本TF関係者MLは、以下とする。準備が出来次第連絡する。  
★事務局

openacademy@ssken.gr.jp

タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第1回会合 議事録  
 (敬称略)

I. 日時：2015年6月8日(月) 15:00-18:00

II. 場所：広島大学 東広島キャンパス  
 情報メディア教育研究センター 本館2階セミナー室3

III. 出席者：

[メンバー] 小林 真也(愛媛大学 ICT コース) [担当幹事]、  
 村上 和彰(九大基盤) [まとめ役]、  
 柏崎 礼生(大阪大)、八重樫 理人(香川大)、  
 近堂 徹(広島大)、中尾 保弘(富士通(株))  
 行政・文教システム事業本部)、林 直樹(同)、  
 戸谷 崇浩(同)、草野 良智(同)、太田 雅浩  
 (富士通(株) デジタルビジネスプラットフォーム事業本部)

[ゲスト] 西村 浩二(広島大)

[事務局] 鈴木 誠一郎、西 一成、黒田 和秀

IV. 配布資料

#1 タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第1回会合資料

#2 別紙 OACFJ(Open Academy by Cloud Foundation Japan)  
 企画書 ver4.1

#3 別紙 第7回情報戦略フォーラム開催案内

V. 議事内容 (★はアクションアイテム)

■主な議論

1. 本タスクフォース設立の確認

- ・5月22日の幹事会で本タスクフォースの設立が承認されたことを事務局から報告した。
- ・活動を開始するに当たって、活動方針や活動内容について再度意識合わせをした。  
 →承認された活動方針、活動内容をベースに活動を進めていく。  
 →クラウドは手段の一つ。本タスクフォースでは、クラウドにこだわらない。  
 →Open EducationやOpen Scienceを論じるときは、表面からは見えないデータやプロセスなどにも焦点を当て、その利活用やあり方も検討する。

2. 大学におけるデータ利活用やデータ連携に関する議論

各メンバーがデータ利活用などについて調査してきた結果を報告し、それに対する議論を行った。

(1) 富士通からの報告

- ・学生視点で捉えたデータのつながりを図式化した資料(①)を説明した。  
 →同じような方法で、教員、職員についてもそれぞれの活動ごとにまとめることを検討している。
- ・Unified One コンセプトによる価値の例とそれに必要なデータをまとめた表(②)を説明した。内容はこれから拡充していく。
- ・上記①と②の資料は、同じターゲットを違う視点から見たもの。  
 →②の方が新しいサービスを考えやすい。  
 →これをアイデアソンの課題にするのも一案である。  
 「こういうデータ(TFメンバーの現状から集める)があるけれど、これらを使うことによって、どのような価値を生み出すことが考えられるか？」
- ・サービスを受ける人によって、見ることができるデータのレベルを変えること(ロール制御)ができると、サービスの幅が広がると思う。  
 ロール制御を実現する場合には、インターフェイスデザインが重要。

(2) 香川大学からの報告

- ・現在、大学に対してキャンパスライフ支援システム(Analytics System)を提案している。  
 →データ統合基盤を作ることによって、学内連携、学校間連携が実現できるのではないかと。  
 →新たなシステムを導入するには、人を含めた運用(待遇も含めて)をきちんと考えなければならない。

(3) 広島大学からの報告

- ・学生はスマホから学内の無線LANに接続してサービスを使用することが大半なので、無線LANの利用情報ログを活用しようとしている。  
 →スマホが接続したアクセスポイントを追うことによって、学生の動態調査ができる。  
 →今後CLA(Campus Life Analytics)として、収集したデータを匿名化してオープンデータ、ビッグデータとして使っていく可能性についても検討を進める必要がある。
- ログ管理システムには、クラウドサービス Amazon Redshiftを使用。  
 このシステムは、学内のクラウドガイドラインにきちんと従っている。  
 システムに登録したデータは、横断的に検索可能である。
- ・PC必携化によって学生に対してメリットがあることを示したいと考えている。

(4) 大阪大学

- ・現在、関係部署にスキーマを提供してもらうよう調整中。6月中には、スキーマを入手できそう。

(5) フリーディスカッション

- ・ビッグデータを利用すると、大学にはこんなベネフィットがあるよ、ということを示せないか。
- ・クラウド化することによる、コスト以外の価値は？  
 →質的転換になる。  
 →根拠ある試算によって、「こんな世界になるよ」ということを、提言の中で示せたらよい。
- ・データの所在がバラバラでも、サービスが繋がっていればよい。  
 →共通APIを想定できるかがキーとなる。  
 →サービスを取りまとめるインテグレータが重要となるだろう。
- ・クラウドで提供されるサービスの提供ベンダーは、それぞれ別なので、クラウド化によって、逆にサイロ化されてしまうのではないかと。
- ・クラウド化に対して、センター(技術職員)にとっては、管理者側からユーザー側になることに抵抗があるかもしれない。
- ・データがオープンになると、大学間競争が誘発されるかもしれない。

3. OACFJ についての情報共有

OACFJについて、企画書をもとに前回説明時からの変更点などの説明があった。

- ・今後、私情協やアカデミッククラウド検討準備会などに対して、OACFJの内容を説明予定。大学CIOに対する啓蒙に繋がればよいと考えている。
- ・企画書中の「コモディティ」とは、従来の大学が持っているサービス、資源を指している。
- ・提供サービスは、現在OACFJ立上げ関係者で検討中。各サービスは各企業が提供する。  
 各サービスは、学内に閉じた利用だけではなく、大学間もデータでつなげようとしている。  
 →OACFJが大学側に提供して欲しいデータがはっきりしていないと、大学も対応しづらい。
- ・サービスに関する契約は、サービスを利用する大学と、サ

ービスを提供する企業との間に「OACFJ ハブ(NII+α)」が入ることによって、お墨付きを与えるような形態を考えている。また、大学とサービス提供企業間は、SLA を結ぶことになると思われる。

- ・課金体系は、大学が支払いやすい形式(月額固定+バウチャー)を考えている。
- ・「クラウド化≠低価格化」を前面に出すのではなく、大学の本来の目的である教育研究に注力できる(「同じ金額で、大学のパフォーマンスが上がる」という示し方をして欲しい)。
- ・サービス間(サービス提供企業はそれぞれ異なる)でデータ連携ができると、新しい価値が生まれるのではないかな。
- ・SaaS 利用にあたっては、サービス提供側に大学が合わせなくてはならないという懸念を持っている。

#### 4. アイディアソンについて

様々な発想で、目指すべき近未来の大学像を考えていくために、アイディアソンを実施する方向で今後検討する。

- ・テーマ候補
  - ー大学が持っているデータを使って大学の価値を上げるには?  
「こういうデータ(TF メンバーの現状から集める)があるけれど、これらを使うことによって、どのような価値を生み出すことが考えられるか？」
  - ー大学ランキングを 100 上げるには?
- ・ハッカソンを実施することも実現性も含めて今後検討する。

#### 5. その他

- ・今回提示した資料のデータを事務局に送る。  
★各メンバー
- ・Unified One コンセプトによる価値の例とそれに必要なデータをまとめた表を更に拡充する。★富士通メンバー
- ・引き続き、各大学でのデータ利活用やデータ連携のユースケースを調査、検討する。★各メンバー

#### 6. 次回会合

・日時：2015 年 8 月 3 日(月) 15:00-18:00

場所：富士通(株)本社 6 階

ユーザコミュニティサロン内エグゼクティブルーム B

主な議題：

- ・データの利活用についての調査報告、議論
- ・今後の活動ロードマップの検討
- ・翌日の情報戦略フォーラムで行うパネルディスカッションの意識合わせ

以上

タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第2回会合 議事録  
 (敬称略)

- I. 日時：2015年8月3日(月) 15:00-18:00
- II. 場所：富士通(株) 本社 6F ユーザコミュニティ内エグゼクティブルームB
- III. 出席者：  
 [メンバー] 小林 真也(愛媛大学 ICT コース) [担当幹事]、  
 村上 和彰(九大基盤) [まとめ役]、  
 柏崎 礼生(大阪大)、近堂 徹(広島大)、  
 八重樫 理人(香川大)、中尾 保弘(富士通(株))  
 行政・文教システム事業本部)、林 直樹(同)、  
 戸谷 崇浩(同)、草野 良智(同)、太田 雅浩  
 (富士通(株) デジタルビジネスプラットフォーム事業本部)  
 [ゲスト] 柴崎 辰彦(富士通(株) インテグレーションサービス部門  
 戦略企画統括部)  
 [事務局] 鈴木 誠一郎、黒田 和秀

- IV. 配布資料
- #1 タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第2回会合資料
- #2 別紙 アイディアソン、ハッカソンに関する資料
- #3 別紙 SS 研夏イベント(教育環境分科会、SS 研 HPC フォーラム、システム技術分科会)開催案内
- #4 別紙 第7回情報戦略フォーラム開催案内

V. 議事内容 (★はアクションアイテム)

■主な議論

1. アイディアソン、ハッカソンに関する情報提供
- ・柴崎氏が事例を交えながら、アイディアソン、ハッカソンに関する情報提供を行った。アイディアソン、ハッカソンを企画・実施する際のポイントは以下のとおり。
- ーテーマ設定
- \*共通善(地域貢献、社会課題の解決)を目指すようなテーマにする。
  - \*「自分ごと化」するような課題が良い。
  - \*事前にスクリーニング議論をすることもある。
- ーチームング
- \*参加者は多様性が重要(理系、文系、デザイナー(不足しがち)、...)。
  - \*その場でチームを作る。参加者(母集団)人選はあらかじめ設計。
  - \*ハッカソンまでやるときはアイディアソンはそのチーム作りの位置づけ。
- ー前半のモチベーションケアが重要。
- ー告知から開催までは1か月~2か月必要。
- ー賞品は無くても大丈夫。
2. 本タスクフォースのアイディアソンの概要検討
- ・本タスクフォースが計画しているアイディアソンの構想を柴崎氏に伝えながら、概要を検討した(ハッカソンは実施しない)。
  - 詳細な企画は、富士通委員が柴崎氏の部隊と相談しながら立案し、メーリングリストを使って、会員委員とも内容調整をする。★富士通委員
- ーアイディアソンの開催目的
- \*タスクフォースメンバーの考えだけではなく、多様なアイデアをもとに将来の大学像を描くため。
  - 教員の立場だけではなく、学生がやりたいことを引き出したい。
- ーテーマ案(5~10年後をターゲットにする)

- \*学びたくなるような大学とは?
  - \*自分の大学を自慢したくなるようにするためには?
  - \*自分が過ごしやすい大学にするためには?
  - \*自分が学長になったら?
  - \*自分の子供を入学させたい大学とは?
  - \*大学が地域と結びつくためには?
- 今あるデータを使って何ができるか、更にこういうデータがあれば、こんなことができるのに、といった観点でも議論させたい。
- そのとき、今までタスクフォースで調査した大学が持つデータ例を提示すると良いかもしれないが、それにこだわってしまうという逆効果も考えられるので、熟慮する必要がある。
- 1日目: general なテーマ、2日目: データを絡めたテーマ、とする手もある。

ー募集方法、対象

- \*委員が所属する大学の学生・教員・職員、富士通内定者など
- \*40名位集めて、1チーム5名程度の構成としたい。
- \*テーマを決めた上で、人選(コア+公募?)。
- \*地区予選(メンバーの大学)→本大会(大阪)?

ー開催時期

- \*2016年2月(中旬以降)の1日~2日

ー開催場所

- \*大阪地区(関西 SL、FSAS フューチャーセンター、阪大など)

ーその他、要検討事項

- \*インプットセミナーの内容・講師、ファシリテーターの人選。
- \*参加者の交通費の負担をどうするか。
- など

2. 今後のロードマップの検討

- ・本タスクフォースの活動ロードマップを以下の通り確認した。
- 当面は、アイディアソンの企画・開催を中心に活動することとした。

2015年6月	第1回会合(6/8):
	活動の方向性の確認、各委員の調査結果報告・議論
7月	
8月	第2回会合(8/3):
	アイディアソン情報提供・企画、ロードマップ作成
	企画(柴崎氏と相談しながら富士通委員が企画、MLで調整)
11月	第3回会合(11/16):
	アイディアソン企画・最終調整
12月	募集開始、アイディアソン準備
2016年1月	アイディアソン準備
2月	アイディアソン実施(中旬以降)
3月	第4回会合:
	アイディアソンの結果を受けて議論
4月	
5月	第5回会合: 議論の整理(1)
6月	
7月	
8月	第6回会合: 議論の整理(2)、活動まとめ(1)
9月	

10月

11月 第7回会合:活動まとめ(2)

12月 活動終了

3. 次回会合について

- ・以下の通り次回会合を開催することとした。
  - ー日時: 2015年11月16日(月) 13:30-18:00
  - ー場所: 香川大学
  - ー主な議題: アイディアソンの企画・最終調整

4. 事務局からのお知らせ

- ・今後開催する以下のSS研関連イベントを紹介した。
  - ー第7回情報戦略フォーラム(SS研後援)(8月4日)
  - ー教育環境分科会2015年度第1回会合(8月25日)
  - ーSS研HPCフォーラム2015(8月28日)
  - ーシステム技術分科会2015年度第1回会合(9月1日)

以上

タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第3回会合 議事録  
(敬称略)

I. 日時：2015年11月16日(月) 14:00-17:30

II. 場所：香川大学幸町キャンパス 南五号館  
総合情報センター1F セミナー室

III. 出席者：

- [メンバー] 小林 真也(愛媛大学 ICT コース) [担当幹事]、  
村上 和彰(九大基盤) [まとめ役]、  
柏崎 礼生(大阪大)、近堂 徹(広島大)、  
八重樫 理人(香川大)、中尾 保弘(富士通(株)  
行政・文教システム事業本部)、林 直樹(同)、  
戸谷 崇浩(同)、草野 良智(同)、太田 雅浩  
(富士通(株) デジタルビジネスプラットフォーム事業本部)
- [ゲスト] 近藤(香川大)、末廣(同)、  
西川 裕二(富士通(株) イノベーションサービス部門  
戦略企画統括部)、浜田 順子(同)
- [事務局] 西 一成、黒田 和秀

IV. 配布資料

- #1 タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第3回会合資料  
#2 別紙 アイディアソン企画案、参考資料  
#3 別紙 第7回情報戦略フォーラムアンケート集計結果

V. 議事内容 (★はアクションアイテム)

■主な議論

1. 香川大学の紹介

- 近藤氏、末廣氏から、香川大学の学内システムなどの紹介があった。

2. アイディアソンの企画・最終調整

(1) 西川氏、浜田氏からアイディアソン「大ガッコソン」の企画案の説明があった。

- 2月18日(木)-19日(金) 横浜会場と神戸会場の同時開催
- 決勝プレゼンは、蒲田で3月上旬開催予定  
→その後3月7日(月)に確定。
- 協賛として、横浜市と神戸市に打診している。  
→地域からの視点でキーノートをお願いしようとしている。
- 学生は、大学1年～修士2年を対象として一般募集(知財の関係で18歳以上)。  
事前課題の提出が条件(そもそもの課題から考えてもらう)。
- 学生参加者には、宿泊費、旅費を出す。社会人には出さない。
- スケジュール
  - \*1日目  
AM: インプット(キーノート) 15-20分×2-3  
PM: 個人ワーク、チーム活動
  - \*2日目  
チーム活動

(2) 企画についての議論

- アイディアソンの開催はSS研単独では、いろいろと難しいので、既存のイベントに相乗り(企画協力)の形とする。
- 「2021年の大学のあり方」を考えてもらう。その際、課題を挙げるのではなく、ゼロから作るには? というポジティブな議論にしたい。将来のあり方を考えたい(先々のことまでイメージできるように)。  
→ICTがどのように役に立てるか?
- 2021年だと近すぎる。非連続的にしたい。→2029年?
- キーノートで洗脳しないと、とんがったアイデアが出ない。  
→シンギュラリティを前提にインプットしたい。  
これまでの会合で出た課題、アイデアを入れながらインプットする。キーノートの内容は2会場でも共通(村上先生

作成)とする。★村上

→キーノートは、村上先生(確定)と柏崎先生?(今後検討)  
★会員委員

- データ連携は手段、こだわっていない。  
データ連携の部分はキーノートでインプットする?
- 事前インプットの情報などをSS研として出すか検討する。  
★委員  
(教育環境分科会の資料や村上先生の資料など)
- サブタイトルを工夫したい  
(インパクトのあるタイトルにすると学生が集まりやすい)  
- 「大学」ではない「ダイガク」を作ろう!  
- 思わず行きたくなる学びの場
- いくつかの評価軸を決めて、それぞれの賞を設けるか。  
ただし、事前に告知しない。  
そのうちの一つとして、データ賞をSS研視点で設けるか検討したい。★委員  
- これは、既存のこういうデータがあればできるね  
- 新たに、こういうデータが必要だね など
- 大学教職員、地元企業の参加者について  
- 大学教員、職員は、メンバーからの推薦→MLに連絡(年内)  
★会員委員  
- 文科省に声掛け(村上)★村上
- 本日出たアイデアをもとに、富士通側で企画を確定して、11月中旬に募集を開始することとした。

3. アイディアソン実施後の活動についての検討

- 本タスクフォースの成果は、どこを目指すのか?  
→今の状態と目指す状態とのギャップを埋めるためにどうすれば良いかを提言する。  
- 各ステークホルダーに警鐘を鳴らしたい  
- 富士通の戦略なども考慮に入れる
- アイディアソンの結果を、今までの議論と絡めて、どうタスクフォースの成果に結びつけるのか?  
→キャンパスマップにマッピングする(村上)+個々の大学の課題(事前インプットに間に合う?)★村上
- 今までの議論で足りない要素は何か?  
→次回3月7日に検討する。
- どのような形で成果をまとめるか?  
→次回3月7日に検討する。

(参考)今後のロードマップ

- 11/末 募集開始  
| 準備
- 2/18-19 アイディアソン(横浜、神戸)
- 3/7 決勝プレゼン(蒲田)
- 3/7 第4回会合(決勝プレゼン前)
- 5月 今までの議論の整理(1)
- 8月 今までの議論の整理(2)、活動まとめ(1)
- 11月 活動まとめ(2)  
| 提言発信
- 12月 活動終了

4. 次回会合について

- 以下の通り次回会合を開催することとした。  
- 日時: 3月7日(月)午後(決勝プレゼンの前)  
- 場所: 富士通(株)(蒲田)  
- 主な議題: アイディアソンで出たアイデアの整理ほか

5. 事務局からのお知らせ

- 第7回情報戦略フォーラムのアンケート集計結果を報告した。
- 1月18日のシステム技術分科会第2回会合の案内をした。

以上

タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第4回会合 議事録  
 (敬称略)

I. 日時：2016年3月7日(月) 14:00-17:30

II. 場所：富士通ソリューションスクエア R225

III. 出席者：

- [メンバー] 小林 真也(愛媛大学 ICT コース) [担当幹事]、  
 村上 和彰(ISIT) [まとめ役]、柏崎 礼生(大阪大)、  
 近堂 徹(広島大)、八重樫 理人(香川大)、  
 林 直樹(富士通(株) 行政・文教システム事業本部)、  
 戸谷 崇浩(同)、草野 良智(同)、  
 太田 雅浩(富士通(株) デジタルビジネスプラットフォーム  
 事業本部)  
 (欠席) 中尾 保弘(富士通(株) 行政・文教システム事業本部)  
 [事務局] 西 一成、黒田 和秀

IV. 配布資料

- #1 タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第4回会合資料  
 #2 別紙 大ガッコソン関連資料

V. 議事内容 (★はアクションアイテム)

■主な議論

- 幹事会(3/18)での活動報告内容の確認
  - 第113回幹事会(3月18日)で報告する本タスクフォースの活動報告内容を確認した。
- アイデアソン結果の共有・整理およびそれを受けての議論
  - アイデアソンで出てきたアイデアの印象
 

以下の意見が出た。

    - 横浜会場、神戸会場とも、AIとVRを題材としたアイデアがほとんどだった。
    - 2030年のイメージもほぼ共通で、「少子高齢化」「学びの多様化」「人間関係の希薄化」。
    - 地域の課題を大学の課題として捉えていない。
    - 失敗したくないので、AIが適切な提案をするアイデアが出てくるのか。
    - 現在の受身重視の授業への不満があるようだ。
    - 大学を就職前の専門学校のように捉えている。
    - 知識を簡単に手に入れたいという要求を実現しようとするものが多かった。
  - アイデアソンに参加した学生の印象
 

以下の意見が出た。

    - 枠に嵌っている学生が多い。
    - 皆まじめで、出てきたアイデアもインプットセミナーの内容に引張られた感。  
 →本能的に今回のアイデアソンの評価軸を察しているのかもしれない。  
 両極端内容のインプットを提供した方が、アイデアに多様性が出たかも。
    - 何事にも誘導されたい感がありそう。
    - 失敗を恐れすぎているように思える  
 →今まで無難に生きてきたからか。
  - アイデアソンの結果を受けての議論
    - アイデアソンの結果を大学経営層に見せても良いかもしれない。
    - 画一的な学習に関して、ICTを使って効率化した場合、余った時間を何にどう使うかをきちんと考えないといけない。
    - 知の習得へのモチベーション(興味)を、学生(特に学部生)にどのように持たせるかが重要。
    - 今の学生は、偏差値で学科を決めることが多いが、専門課程に進んだ段階で、その分野が自分に合っていないと悲惨。
    - VR一辺倒ではなく、リアルでやることの重要性を認識した上で、その選択・精査が大事。  
 →大学の差別化に繋がる。

- ここで議論している大学の定義(捉え方)を定めないと、議論が曖昧になる。
  - MOOCなど、教育の選択肢が揃ってきたが、それらをどう組み合わせれば、その人の希望をかなえることに効果があるかのデータが必要。  
 (例)以下で、どう結果が変わるかを測定する  
 A: ITなし教育  
 B: ITを駆使した教育  
 C: B+チャレンジを許容する環境
  - 学生にストレス耐性、失敗耐性を付けさせたい。  
 →ICTがあるがために、失敗例を事前を知ることができ、最初から失敗を避ける。
  - 判断したくない人が多い傾向が見られる。  
 →情報過多のために、自分で判断しない。  
 周りが過保護で回答を与えてしまう。  
 最後にJudgeするのは自分だという意識(判断のときの思考)が低い。←訓練が必要  
 与えられた選択肢ではない判断ができない。
  - GPAが良くない
  - 大学自体が成果主義(つまらない論文を出す)。偏ったデータに基づく成果主義(〇〇インデックス、〇〇インパクトファクター)が教育の方向性を偏らせている。評価をベクトルではなく、スカラーにしたがる。
  - 学びは、個々人の問題にとどまらず、社会としての器が必要。
  - 大学は広い観点で学生を評価することが必要。←大学の社会的使命
  - 企業が大学に期待すること  
 -人材供給源  
 -学業が優秀な学生だけではなく、とんがった学生、多様性が欲しい。  
 →とんがった人、失敗した人を許容する社会が必要  
 -大学は早めに「失敗→チャレンジ→成功」の経験をさせて欲しい。
  - 企業が求める人材だけで良いのか、よく考える必要がある。
  - 企業でも失敗させない力が働く  
 (リーダーは、リードしているのではなく、管理している人間ばかり)
  - 学生と企業のミスマッチも問題だが、マッチしすぎの問題もあるだろう。
  - 次回会合で、大学のあるべき姿について見識のある方を招いて議論する。  
 [招聘候補者]  
 -東大 大学総合教育研究センター 中原 淳 氏  
 (経営学習論、人的資源開発論、高等教育論)  
 ★事務局打診  
 -芝浦工大 教育イノベーション推進センター  
 井上 雅裕 氏 (PBL) ★小林先生打診  
 -都留文科大 福田 誠治 氏  
 (世界的観点での比較文化・教育論)  
 ★村上先生打診
  - 次回会合について
    - 以下の通り開催することとした。  
 開催日は、候補日から、招聘する方の予定を確認した上で決める。★事務局  
 -日時：第1候補 6月24日(金) 14:00-17:30  
 第2候補 6月17日(金) 14:00-17:30  
 -場所：富士通(株)本社 (汐留)  
 -主な議題：有識者との議論、今までの議論の整理
  - 事務局からのお知らせ
    - 5月27日(金)の第38回通常総会のご案内をした。
- 以上

タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第5回会合 議事録  
 (敬称略)

I. 日時：2016年6月24日(金) 14:00-17:50

II. 場所：富士通(株) 本社 6F ユーザコミュニティインテグレーションルームB

III. 出席者：

[メンバー] 小林 真也(愛媛大学 ICT コース) [担当幹事]、  
 村上 和彰(ISIT) [まとめ役]、柏崎 礼生(大阪大)、  
 近堂 徹(広島大)、  
 草野 良智(富士通(株) 行政・文教システム事業本部)

(欠席) 八重樫 理人(香川大)、  
 中尾 保弘(富士通(株) 行政・文教システム事業本部)、  
 林 直樹(同)、戸谷 崇浩(同)、  
 太田 雅浩(富士通(株) デジタルビジネスプラットフォーム  
 事業本部)

[ゲスト] 福田 誠治(都留文科大)、井上 雅裕(芝浦工大)

[事務局] 西 一成、黒田 和秀

IV. 配布資料

- #1 タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第5回会合資料
- #2 福田先生の資料
- #3 井上先生の資料

V. 議事内容 (★はアクションアイテム)

■主な議論

1. タスクフォースの概要紹介

- ・村上当まとめ役から、ゲストの福田様に本タスクフォースの概要を説明した。

2. ゲストからの情報提供と意見交換

(1) 福田先生(都留文科大)からの情報提供と意見交換

- ・福田先生から、都留文科大の概要、国際教育学科の新設の狙いなどの紹介があった。
  - ・福田先生から、主にフィンランドに焦点を当てた、海外の教育制度や歴史的経緯、現状などを、日本との対比もまじえて紹介があった。
- 以下のキーワードがあがった(一部のみ記載)。

- ーフィンランド
  - \*生徒の勉強時間は、日本の1/2-1/3。知識などは、テレビやビデオなどで覚えてしまう。学校はそれを整理するだけ。
  - \*テストはない。テストがあることでよくない影響があるという意識がある。
  - \*学費は無料(小中高大)。  
 生徒は、勉強するのが仕事という考えから、生活費も払われる。
  - \*学校間格差はほとんど無い。
  - \*営利を伴う私立学校は禁止されている。
  - \*政治が教育に口を出さない(専門家に任せるという考え)。
  - \*教員の収入は比較的低いが、「自由」であることがインセンティブ。
  - \*生徒は、学校や社会は、自分たちを見放さないという実感がある。
  - \*コンテンツベース→コンセプトベース。
  - \*学力の世界標準は、EU が着々と作っている。

ー日本

- \*日本は日本語で守られているが、逆に日本人も外に出られない。
- \*テストが利害で固められて身動き取れない。

- \*受験学力→実社会での実力への転換が必要。
- \*海外の文化が日本語でストックされているのは、とても重要。
- \*アナログの情報をデジタル化して、実際に使うときにはアナログに戻すのが、日本の良いところ。

(2) 井上先生(芝浦工大)からの情報提供と意見交換

- ・井上先生から、芝浦工大で行われている、アクティブラーニングの取り組みについて、紹介があった。
- 以下のキーワードがあがった(一部のみ記載)。
- ー技術的な教育だけでなく、プロジェクト管理なども教育体系に組み入れている。
- ー演習は、学科を越えた混成チームにすることによって横の連携、大学院生がチームに入って助言するなど縦の連携を組み込んでいる。
- ー国際・産学・地域連携PBLを実践している。
- ー教育プログラムは、世界標準にしていけないとダメ。
- ー大学に在る間に学生自身が、今受けている教育の価値に気づくことにより、より高い学習効果が出る。そのためには、どうしたら良いか?

※今回の有識者からの情報提供および意見交換を通して、各自感じたこと、考えたことなどをまとめる。★各委員次回会合は、それを持ち寄り、議論、整理する。

3. 次回会合について

- ・8月に開催することとした。
- ー開催日：後日メーリングリストで調整する。★事務局
- ー場所：未定
- ー主な議題：(1) 第5回会合の有識者との議論を受けて、各自感じたことや考えたことをまとめたものをベースに、議論、整理
- (2) 今までの議論の整理
- (3) 活動まとめ

4. 事務局からのお知らせ

- ・今後開催される、SS 研関連のイベントを案内した。

以上



タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第6回会合 議事録  
 (敬称略)

I. 日時：2016年9月15日(木) 13:00-17:00  
 II. 場所：大阪大学吹田キャンパス サイバーメディアセンター

III. 出席者：  
 [メンバー]小林 真也(愛媛大学 ICT コース)[担当幹事]、  
 村上 和彰(ISIT)[まとめ役]※Skype で参加、  
 柏崎 礼生(大阪大)、近堂 徹(広島大)、  
 八重樫 理人(香川大)、  
 林 直樹(富士通(株) 行政・文教システム事業本部)、  
 草野 良智(同)  
 (欠席) 中尾 保弘(富士通(株) 行政・文教システム事業本部)、  
 戸谷 崇浩(同)、  
 太田 雅浩(富士通(株) デジタルビジネスプラットフォーム  
 事業本部)

[事務局] 西 一成、黒田 和秀

IV. 配布資料  
 #1 タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第6回会合資料  
 #2 SS 研秋イベント2016のご案内

V. 議事内容 (★はアクションアイテム)

■主な議論

1. 第5回会合での有識者との意見交換を受けた議論

- (1) フィンランドと日本の教育の対比などの議論
- フィンランドの事例を聞いたが、日本ではステークホルダーが多く、現状を変化させることが難しいとともに、成果もはっきり示すことが出来ない。
  - 靴に足を合わせるのではなく、足に靴を合わせると言っていたが、日本ではなかなか難しい。ICTを活用すれば、日本でもできるのか？
  - 子供が生き生きしていた。自分の好きな事を伸ばすことで成功している。  
→ただし、企業の側から見ると、得意なものだけを伸ばせば良いのかという疑問もある。
  - コンテンツベースの教育からコンセプトベースの教育への転換というのが印象的。  
→日本とは、文化や教育観の違いが大きいのではないかと。  
日本：ティーチング ↔ フィンランド：ラーニング
  - 日本では、日常生活で学ぶべきものまでシラバスに載せようとしている。  
そんなことまで文科省がコントロールしようとしていることに疑問を感じる。

(2) 評価に関する議論

- 教員(人事)評価が、〇〇インデックス、論文数などに一本化しすぎ。定性的なことでは評価されない。昔は、評価が多軸だった。  
→法人化後、今までと違う競争に入っていたが、企業化されきれていない。
- 大学ランキング  
→大学の方向性を決めているのは親。  
→学生からすれば、いいとこどりでできれば良い。  
→ランキングが細分化されてきた。  
学生が大学を選ぶためには、良い評価基準を持っているかどうか重要。

あとで後悔しないか？ 高校の先生が基準を示せるのか？

(3) 学生の進路などの議論

- 企業は、現在ではいろいろな採用ルートから学生を採る。大学は、就職に関して、学生に色々な機会を与えることが役割。
- 学生を、書類で見えない部分をデータを使って評価できたら良い。  
企業によって評価軸が違っていると面白い。  
企業が学生に求めるのは、技術を持っているかではなく、変化についてこれるか。  
変化認知能力を育てるにはどうすればよいのか？日常生活から学べるか？  
→同じ環境でも、感じる事ができる学生とそうでない学生がいる。感じる力が必要。感じる力はどう育てることができるか？、家庭か、大学教えるのでは遅いのか？
- 自分のやりたいことと能力がアンマッチ  
それがダメなのか、そうでないのか？
- 大学=学術(直接社会に役立たなくても必要)  
+教育(卒業後50年生きていくための力を付けさせる)

2. 今までの議論の整理/活動まとめ

本タスクフォースの成果物(活動報告書)を以下のとおり纏めることとした。

- 今までの議論+知見をエビデンスとしてまとめる(まだ提言できる状態ではない)。  
→いずれかの会合(総会か?)で報告+Web掲載
- 活動報告書目次(案)
  - 活動方針
  - 活動履歴
  - 議事録
  - 各メンバーが得たもの(表題は未定)  
本タスクフォースで得たものをまとめる  
★柏崎、近堂、八重樫  
※以下のような観点があると良いが、まずは制約なしで次回までに記述。  
→その後、整理・補足する  
\*オープンアカデミー、データでつむぐ  
\*今よりも少し先に何があるのかを示したい  
\*学生から出たアイデア  
(今の大学とは違う。紹介レベル。これを実現するためには、どう変化すればよいのか)  
\*高等教育の変化  
→どのようなディレクションをすれば良いのか？、本当に可能か？  
→データ、ICTの活用で、こうすることもできる、など  
\*データ、ICTを活用することの課題は？
- (5) 総括(村上まとめ役)

3. 本タスクフォースの発展形について

本タスクフォースの発展形としての活動について、自由に議論した。

- Work in progress 発表をきっかけにして、社会や企業が求めるものについて議論し、企業も絡みながら研究資金提供や、共同研究・共創につなげていく。(研究-企業のマッチング)
- 情報センターにおける若手育成に関する議論  
→「情報センター+AI」は良い組み合わせかもしれない。  
→センターに若手がいない、全体の人数も減っているなかで、どのように若手を育てればよいのか？

- ープロジェクトを特任+非常勤で回すと、プロジェクトが終わった後に何も残らない。
- ー若手が興味を持つ新しい動きやトレンドなどに関して、研究費から出しにくい
- ー情報収集の場(サウスバイサウスウエスト SXSW など)への参加費を、SS 研が出して報告させる。

・その他

- ー他の大学や、研究機関の実情を知りたい。クローズでの意見交換の場が欲しい。
- ーすごくない選手権はどうか。
- ー若い人に、今使われている技術(学内メールシステムなど)を否定してもらい、次は何?を議論。
- ー女性もメンバーに入れて議論する(男性ばかりだと思考が凝り固まってしまう)。

4. 今後の会合について

成果物をまとめるために、本TFの活動期間を1ヶ月延長し、以下の通り会合を開催する(12月の幹事会で延長申請予定)。

- ・第7回会合：12/5(月) 福岡(富士通(株)九州支社 または ISIT) ※事後:会場は ISIT
  - ー活動報告書のドラフト版を持ち寄り、内容検討・ブラッシュアップ
- ・第8回会合：1/6(金) 愛媛大学
  - ー活動報告書の最終調整

5. 事務局からのお知らせ

神戸で開催される、SS 研秋イベントを案内した。

以上

タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第7回会合 議事録  
 (敬称略)

- I. 日時：2016年12月5日(月) 13:00-17:00
- II. 場所：九州先端科学技術研究所 第1会議室
- III. 出席者：  
 [メンバー]小林 真也(愛媛大学 ICT コース)[担当幹事]、  
 村上 和彰(ISIT)[まとめ役]、  
 柏崎 礼生(大阪大)、近堂 徹(広島大)、  
 八重樫 理人(香川大)、  
 林 直樹(富士通(株) 行政・文教システム事業本部)、  
 草野 良智(同)
- (欠席) 中尾 保弘(富士通(株) 行政・文教システム事業本部)、  
 戸谷 崇浩(同)、  
 太田 雅浩(富士通(株) デジタルビジネスプラットフォーム  
 事業本部)
- [事務局] 西 一成、黒田 和秀

IV. 配布資料  
 #1 タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第7回会合資料

V. 議事内容 (★はアクションアイテム)

■主な議論

1. 第115回幹事会での本タスクフォース報告の確認  
 ・第115回幹事会(12/9)での本タスクフォース関連の以下の事項について確認した。  
 -2016年度活動報告  
 既にメーリングリストで確認済みのため、提示案のまま小林幹事が報告する。  
 -活動期間延長申請  
 既にメーリングリストで確認済みであるが、終了時期を2017年3月に修正し、申請することとした。  
 期間延長により、委嘱状の追加発行などが必要ないか、各自確認する。★各委員
2. 活動報告書の検討/活動まとめ  
 ・各委員から、今までのタスクフォース活動を通じて、得たもの、考えたことなどについて、報告した(柏崎委員、八重樫委員、近堂委員)。  
 また、この内容を活動報告書の材料としてまとめることとした。  
 以下のようなキーワードが出た。  
 -知性主義からの脱却。←それでもいいの？  
 -役に立つことだけが大事なのか？  
 -生活のためではないとした時に、学ぶ目的とは何か？  
 -小中高の学びは決められた範囲を塗りつぶす作業、大学の学びは好奇心の拡大。  
 -大学を求める人が居るから組織できるが、居なくなったら存在できなくなる。  
 例えて言えば、クラブ活動のようなもの。  
 -小さな成功体験、成功事例を積み重ねるのが大事。  
 -失敗できることは大事。  
 -センターは、教育のための情報環境を提供する立場から、教育の方向性を変えるための情報基盤を提供する立場にならなければならない。  
 -データを見ることで、今まで見えなかったものが見えることが出てきた。  
 -データは、蓄積されて初めて重要性が分かってくることもある。  
 -不定型学習(informal learning)-非定型学習(nonformal learning)-定型学習(formal learning)

- ・活動報告書について、以下の通りとすることとした。
- 目次  
 (1)活動方針  
 (2)活動履歴  
 (3)議事録  
 (4)総括(村上まとめ役)  
 →本日、各委員が報告した内容をもとに、村上まとめ役がアレンジし、総括的な内容としてまとめる。  
 ★村上まとめ役  
 報告データを村上まとめ役に送付する。★各委員  
 (5)(参考資料)各メンバーが得たもの(表題未定)  
 (柏崎委員、近堂委員、八重樫委員)
- 体裁/発行  
 報告書は、紙媒体では発行せず、PDF版をWeb掲載する。  
 2017年3月までに完成させる。
- 会員への報告  
 報告会などは実施せず、第39回通常総会で、報告書のURLを掲載したチラシを配るのみとする。

3. 次回会合について  
 以下の通り、次回会合を開催することとした。  
 ・第8回会合  
 日時：2017年1月6日(金) 13:00-17:00  
 場所：愛媛大学  
 主な議題：活動報告書の検討  
 -ドラフト版の内容確認、修正箇所の検討  
 -報告書発行スケジュールの検討 など
4. 事務局からのお知らせ  
 2017年1月24日に開催するシステム技術分科会を案内した。

以上

タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第8回会合 議事録  
——(敬称略)——

I. 日時：2017年1月6日(金) 13:00-17:00

II. 場所：愛媛大学 工学部 大会議室(工学部本館3階)

III. 出席者：

[メンバー]小林 真也(愛媛大学 ICT コース)[担当幹事]、  
村上 和彰(ISIT)[まとめ役]、  
柏崎 礼生(大阪大)、近堂 徹(広島大)、  
八重樫 理人(香川大)、  
林 直樹(富士通(株) 行政・文教システム事業本部)、  
草野 良智(同)、戸谷 崇浩(同)

(欠席) 中尾 保弘(富士通(株) 行政・文教システム事業本部)、  
太田 雅浩(富士通(株) デジタルビジネスプラットフォーム  
事業本部)

[事務局] 松本 孝之、黒田 和秀

IV. 配布資料

#1 タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第8回会合資料

V. 議事内容 (★はアクションアイテム)

■主な議論

1. 第115回幹事会(12/9開催)での本タスクフォース報告結果の確認  
・幹事会での本タスクフォース関連の報告等について以下の  
とおり確認した。  
-小林幹事が2016年度の活動状況を報告し、了承された。  
-活動期間延長申請が承認され、2017年3月まで延長する  
ことになった。
2. 活動報告書の検討/活動まとめ  
・前会合で各委員が報告した、タスクフォース活動を通じて  
得たものや考えたことを参照しながら、活動報告書に総括  
としてまとめる論点を議論、整理した。  
-村上まとめ役が2週間程度で総括のドラフト版を作成し、  
メーリングリストで内容を確認する。★村上まとめ役  
  
・議論の中では、以下のようなキーワードが出た(一部)。  
-知識、知恵、ノウハウ。それぞれが互いに必要。  
知恵については、評価が難しい。  
-教育の「公平性」とは、何の公平性か?  
公平性の対象を間違えてつき詰めると均質な人間が出来  
上がってしまう?  
-自分のデータをいろいろな形で出していくことで、得る  
もの、学ぶものがある。

※参考:活動報告書

—目次

- (1)活動方針
- (2)活動履歴
- (3)議事録
- (4)総括(村上まとめ役)
- (5)(参考資料)各メンバーが得たもの(表題未定)  
(柏崎委員、近堂委員、八重樫委員)

—体裁/発行

報告書は、紙媒体では発行せず、PDF版をWeb掲載する。  
2017年3月までに完成させる。

—会員への報告

報告会などは実施せず、第39回通常総会で、報告書のURL  
を掲載したチラシを配るのみとする。

3. 次回会合について

以下の通り、次回会合を開催することとした。

・第9回会合

日時：2017年3月13日(月) 13:00-17:00

場所：富士通(株)本社(汐留)

主な議題：活動報告書の最終確認

4. 事務局からのお知らせ

1月24日に開催するシステム技術分科会を案内した。

以上

タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第9回会合 議事録  
—(敬称略)—

I. 日時：2017年3月13日(月) 13:00-17:30

II. 場所：富士通(株) 本社 6階  
エザコミュニティ内エグゼクティブルームB

III. 出席者：

[メンバー]小林 真也(愛媛大学 ICT コース)[担当幹事]、  
村上 和彰(ISIT)[まとめ役]、  
柏崎 礼生(大阪大)、近堂 徹(広島大)、  
八重樫 理人(香川大)、  
中尾 保弘(富士通(株) 行政・文教システム事業本部)、  
林 直樹(同)、草野 良智(同)、戸谷 崇浩(同)

(欠席) 太田 雅浩(富士通(株) デジタルビジネスプラットフォーム  
事業本部)

[事務局] 松本 孝之、黒田 和秀

IV. 配布資料

#1 タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」第9回会合資料  
#2 活動報告書関連資料

V. 議事内容 (★はアクションアイテム)

■主な議論

1. 第116回幹事会(3/22開催)での本タスクフォース報告の確認  
・幹事会での本タスクフォースの報告内容について確認した。  
本内容で、小林幹事が報告する。

2. 活動報告書の最終確認

- ・報告書に関する目次等の以下の既決定事項を確認した。
  - 目次
    - (1)活動方針
    - (2)活動履歴
    - (3)議事録
    - (4)総括(村上まとめ役)
    - (5)(参考資料)各メンバーが得たもの(表題未定)  
(柏崎委員、近堂委員、八重樫委員)

—体裁/発行

報告書は、紙媒体では発行せず、PDF版をWeb掲載する。  
2017年3月までに完成させる。

—会員への報告

報告会などは実施せず、第39回通常総会で、報告書のURL  
を掲載したチラシを配るのみとする。

- ・上記に加えて、以下とすることとした。
  - 可能であれば、大ガッコソンの記事を掲載する。
  - 議事録内に都留文科大と芝浦工大の記述があるので、掲載に問題がないかを確認する。
  - 報告書はSS研Webにオープン掲載する。ただし、議事録部分はクローズ掲載とする。

3. 今後の活動について

- ・本タスクフォースでは検討できなかった、もしくは、検討が足りなかった課題について、本タスクフォースのメンバーを核に、新タスクフォースの設立を今後検討することとなった。

以上

## 6. 総括

## **(参考資料) 各メンバーの活動まとめ**







【発行者】サイエンティフィック・システム研究会  
【編集】サイエンティフィック・システム研究会  
タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」  
【発行日】2017年3月31日



<連絡先>

サイエンティフィック・システム研究会 事務局  
〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター  
TEL : 03-6252-2582、FAX : 03-6252-2798  
E-mail : office@ssken.gr.jp  
URL : <http://www.ssken.gr.jp/MAINSITE/>

※著作権は各原稿の著者または所属機関に帰属します。無断転載を禁じます。